

講義名	対)教養特講 (生活のための金融知識)		
担当教員	福田 司文		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
主題と概要	<p>学生、社会人は自立した経済生活が求められます。そのためには経済がどのような仕組みになっているのに関心を持つ必要があります。この授業ではお金と生活の仕組みを理解することをテーマとして、金融問題や経済問題に目を向ける機会をつくってゆきます。本学の専門科目には金融に関する講義が開講されていますが、専門的な内容よりもっと平易な内容で関心を持てるような内容になると考えています。</p> <p>また、カバーする金融の範囲を幅広く、今後生活で関心を持つトピックを選択しています。この授業を通じて専門課程で学ぶ経済や経営の基礎力を鍛えてください。</p>		
到達目標	<p>(1) お金の基本的な仕組みが理解できる。 (2) お金と自分の生活の関わり合いについて関心を持てるようになる。 (3) ニュースに現れる金融問題や使われている用語の意味が理解できるようになる。</p>		
提出課題	<p>授業で簡単な演習や授業内容に理解度を問う問題を通じて理解を確かめる。これらは簡単なレポート提出かResponを併用して提出してもらいます。二部分は2回分については課題を与えますので、自主的に自分で調べてレポートを作成してください。</p>		
課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック	<p>課題について質疑応答して解説します。</p>		
評価の基準	<p>提出課題、レポート等を通じた毎回の内容の理解度を総合的に評価します。</p>		
履修にあたっての注意・助言他	<p>金融や経済の問題に関心を持ってください。関心がなければ何も頭には残りません。ネットのニュースサイトで、ときどきは経済ニュースをチェックしてみてください。</p>		

教科書	.使用しない。			
プリント資料及び参考文献	授業内容の資料を配付します。それに沿って授業を進めます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済の資金の流れ 2. 金融機関の役割 3. 記入の中心－金利について 4. 金利と消費者の借入 5. 株式保有と株式の役割 6. 企業間関係、株主 7. 株主変動 8. 株主変動および投資信託 9. 不動産価格 10. 不動産価格と不動産ローン 11. 債券と外国為替入門 12. 外国為替 13. 社会保障(年金制度と年金拠出) 14. 社会保障(年金給付、医療保険) 15. お金の心理 			
授業形態(アクティブ・ラーニング)	ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
	オ:プレゼンテーション		カ:実習、フィールドワーク	
	キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)			
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間	<p>予習よりも復習に力を入れます。 本学では2単位を修得するためには15回の授業と、1回の授業に対して4時間の予習復習が等の教室外学修が必要となっています。課された課題こなすだけでなく、金融問題について自分で興味を持って調べましょう。</p>			
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>生涯を通じて学ぶにあたっての基礎を築き、社会経済環境の変化に応じた教養を養う科目群が教養特講と呼んでいる科目群です。この科目は社会経済環境の変化に応じた学びを身につけるための素養を提供します。</p>			
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
実務経験の有無及び活用				
備考	<p>一時的に通学困難となった場合は対面授業の中で対応します。(オンデマンド授業への移行はしません)。オンデマンド授業とは課題が異なる場合があります。オンデマンドクラスの情報は参考にしないでください。</p>			